

2013年度

JICA研修コースの実績紹介

コース名 : 「低炭素化社会実現のための発電技術(B)」



(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

2014年4月20日

page. 1

1. 研修コースの紹介

1) コースリーダー / 藤井 岱輔



2) 研修コース名

和文：低炭素化社会実現のための発電技術(B)

英文：Alternative Power Generation Technology for Low Carbon Society (B)

3) 研修受け入期間： 2013/10/23 ~ 2013/11/28

4) 参加研修員 / 13名 (6カ国)

【参加研修員の国名と位置】

参加研修員 6ヶ国 13名



ホンジュラス共和国
Republic of Honduras

1名



ニカラグア共和国
Republic of Nicaragua

6名



エクアドル共和国
Republic of Ecuador

2名



ペルー共和国
Republic of Peru

1名



ボリビア多民族国
Plurinational State of Bolivia

1名



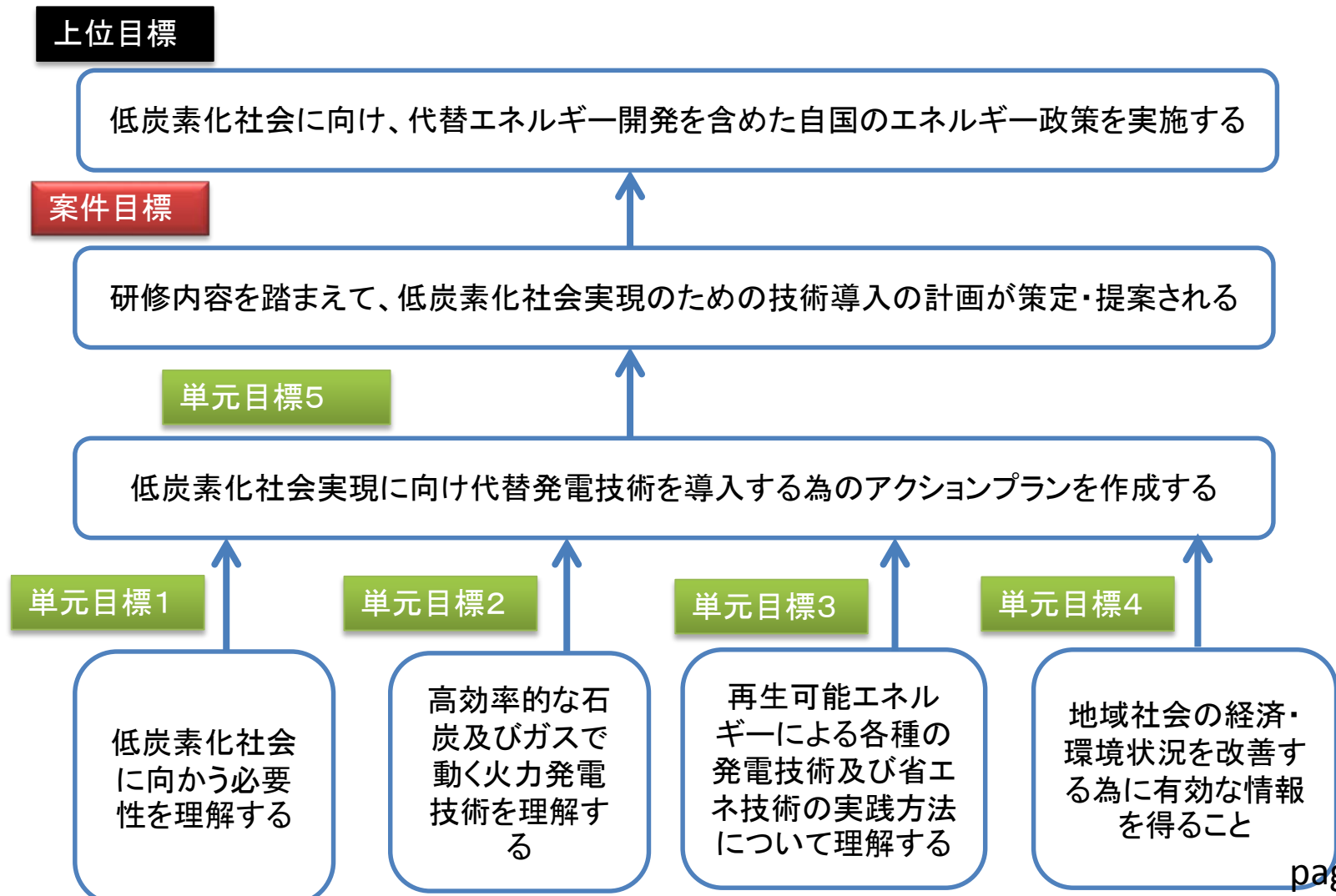
チリ共和国
Republic of Chile

2名



2. 研修の内容

2-1. 研修全体概念図



2-2. 研修目標

案件 目標

研修内容を踏まえて低炭素化社会実現のための技術導入の計画が策定・提案される

自国での検討～実施



日本での研修



単元目標①
低炭素化社会に向かう必要性を理解する。

単元目標②
高効率な石炭及びガスを燃料とする火力発電技術を理解する。

単元目標③
省エネ技術及び省エネの効果的な実践方法の理解

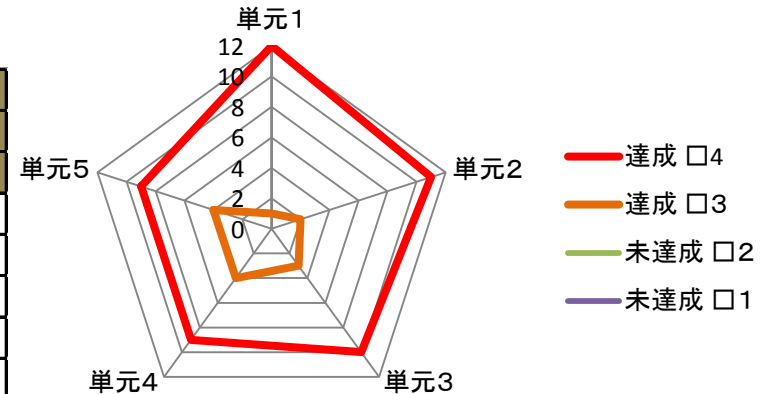
単元目標④
地域社会の経済・環境状況を改善するための有効な情報を得る。

単元目標⑤
低炭素化社会に向け代替発電技術を導入するためのアクションプランを作成。

3. 達成度(単元評価)

(質問票(B)の解答より)

	←← 達成		未達成 →→	
	達成		未達成	
	□4	□3	□2	□1
単元1	12	1	0	0
単元2	11	2	0	0
単元3	10	3	0	0
単元4	9	4	0	0
単元5	9	4	0	0



◆総じて高い達成度が得られました。
 再生可能エネルギーを専門とする研修員は、その分野により重点を置く要望が強く
 一方、既存の火力の効率化も目標とする研修員は、高効率火力発電を評価するといった、若干の温度差も感じられました。

4. コースリーダーの所感

1. 今回の研修「低炭素化社会実現のための発電技術(B)」は、昨年度に続く第二回目です。
2. 今回の研修員13名は、6ヶ国からの派遣者であり、また全員が電力及びエネルギー関連に従事し、講義・見学中の質疑も活発に行われ全員が非常に熱心に研修に臨んでいました。
3. カリキュラム構成は、多様な再生可能エネルギー技術に加え、高効率火力発電技術の講義・見学を取り入れました。特に現在火力発電を主力にしている国からの派遣者には、最先端の火力発電の実例が目にしたことは非常に好評でした。
4. 研修員の帰国後のAction Planの実行に限らず、今回の研修で得られた技術・情報を生かして活躍し、各国の発展に寄与できることを期待しています。

5. 研修員へのアンケート(ピックアップ)

日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴と日本の特性を3つ挙げて頂きました。

研修員(a):

- ①活動する際の能率や社会的な責任。
- ②プログラム調整や実施の際の厳格さ。
- ③講師や研修員に対する敬意。

研修員(b):

- ①礼儀の正しいこと。
- ②正直なところ。
- ③規律正しいこと。

研修員(c):

- ①時間厳守の文化や親切さ、また誇り高さ。
- ②経営者から現場の人までの仕事の対する熱意。
- ③国民が誇りを持つ1000年に歴史を持つ文化。



昼食(和食)を楽しむ研修員

研修員(d):

- ①学校教育。
- ②対人的なマナーの良さ。
- ③高度な技術発展と美しさ。

研修員(e):

- ①親切さ
- ②教育の高さ
- ③寛容さ

研修員(f):

- ①高いモラル
- ②時間の厳守
- ③人的資質(援助を惜しまない)

9. 研修アルバム

